

# クワシロカイガラムシ（第1世代幼虫）の 防除対策について

令和6年5月10日  
埼玉県茶業研究所

本年はクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」）のふ化幼虫の発生ピークは平年より8日程度早い見込みとなりました。しかし、発生量は観察地点では少ないと考えられます。本年のふ化幼虫の発生ピークは一番茶摘採期と全く重なっているため、発生が少ないようであれば、次世代の防除時期（7月）に対策するようにしましょう。

下記の情報を参考に、今後の対策を検討してください。

なお、現在、茶園においてクワシロの発生が多い場合や、今後の防除対策について判断が難しい場合などは遠慮なくご相談ください。

## 1 有効積算温度による推定

各地点の茶株内温度と青梅アメダスのデータから推定したクワシロの防除時期は以下のとおりとなり、一番茶摘採時期とかぶり、適期防除がほぼできない状態です。

調査地点	幼虫ふ化の推定ピーク	防除適期
所沢市（林）	5月5日	5月6日～9日
所沢市（東狭山ヶ丘） 入間市（野田）	5月6日	5月7日～10日
狭山市（笹井）	5月7日	5月8日～11日
入間市（上藤沢） 入間市（茶研）	5月9日	5月10日～13日
入間市（木蓮寺）	5月10日	5月11日～14日
青梅アメダスデータ	5月8日	5月9日～12日
青梅アメダスデータ 過去10年平均 (2014～2023)	5月16日	5月17日～20日

## 2 防除時期のポイント

薬剤による防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安で、この時期を過ぎるとしだいに防除効果が低下していきます。本年は防除時期が一番茶の摘採や製茶時期と重なります。防除時期はあくまでも目安ですので、発生被害がとて多い場合は、適期から遅れても防除対策を行いましょう。その際は、周辺のまだ摘採されていない茶園などへの薬剤のドリフトがないよう注意しまししょう。

一番茶摘採時期と重なり防除が実施できない場合や周辺ほ場がまだ摘採されておらず薬剤防除が困難だったりする場合は、摘採後に米ぬか処理（約40kg/10a）を実施するか、次世代（7月）の幼虫発生時期の対策を考えまししょう。

## 3 防除対策のポイント

(1) 3月にプルートMCを散布したほ場 この時期は、防除対策の必要はありません。

(2) プルートMCを散布していないほ場

- ・発生がとて多い茶園では、摘採後に防除するようにしまししょう。
- ・ふ化幼虫の発生ピークから日数を経た時期に防除することになるので、カルホス乳剤やダズバン乳剤を農薬使用基準に従って散布します。
- ・散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施してください。
- ・二番茶を摘採する場合は、使用前日数に注意して散布しまししょう。
- ・適期より対策が遅れた場合は、単独で米ぬかあるいは菜種粕（約40kg/10a相当量）を茶株の枝幹に付着するように処理するとクワシロ抑制効果があります。

(3) 更新処理

この時期に深刈りや台切り更新を予定している方は、上記防除適期から1週間以上経過したのちに実施するようにして、幼虫や卵の周辺の茶園への飛散や、機械に付着した虫の他のほ場への持ちこみをしないよう注意しまししょう。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しまししょう

連絡先：埼玉県茶業研究所

農業革新支援担当 小俣

TEL : 04-2936-1351

FAX : 04-2936-2891

E-mail : omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp